年間選者賞（令和二年七月号～令和三年六月号）　谷岡亜紀選

小川けい子（令和三年六月号）

一斉に杜に木霊しあかあかと権現まゐりの夜明けの鴉

権現の坂を登りて緋桜の百円握りお百度まゐり

石段に十二、三羽の小鳩ゐん碧の首のポポポクルルクル

春時雨かんぴ桜の紅々（こうこう）と朝の太鼓に蕊は下向く

にぎるものすつかり捨てて手のひらを合はせて祈る合掌の杜

●作者の言葉

この度は年間選者賞の報せにまだうろたえています。短歌の市民教室に漠然と入会し、それが谷岡亜紀先生との出逢いでした。ほとんど知らない短歌の世界です。しかし初めて仰いだ谷岡先生の講義に目から鱗！　確かに体を揺さぶる音が聞こえました。「パキッ！」あれから12年、私には高嶺の花・憧れの「心の花」に入会して3年、去年は一生貰えないと思った特選も頂きました。出逢いから導いて下さった谷岡先生にお礼申し上げます。怠け者ですが果ての日までカオスの生を短歌の歓喜にかえて生きられたら本望です。

●選者の言葉

この一年間に、私は小川けい子の作品を二度、特選一位に選んだ。去年十二月号と今年の六月号である。そのうち後者を今年度の私の年間選者賞としたい。作品は「権現まゐり」を題材とした現代の仏教的フォークロアである。こうした試みは釈迢空や寺山修司にかつて見られた、いわゆる「主題制作」にも通じる。あるいは十二月号に歌われた「鬼滅の刃」の世界観が一つのインスピレーションとなったかも知れない。そう考えると楽しい。ちなみにその十二月号の次の二首も心に残っている。

・魂が逃げないやうにマスクして馴れやすき吾等　キスをしようよ

・9・11なづき零れしフラフラのフラッシュバックにひたすら眠る